

## ロイズカカオ&チョコレートタウン

# カカオ栽培から始まるチョコレートづくりを体感！ 新工場から「チョコレートのみち」をつくる

当別町に明るい話題が続いた。同町と株式会社ロイズコンフェクト(以下、ロイズ)の請願により新設されたJRロイズタウン駅の開業と、体験型施設「ロイズカカオ&チョコレートタウン」のオープンである。新しく誕生した「街」を訪れ、その魅力とこれからの展望を探った。

### カカオ豆加工プラントの完成 ロイズタウンの「街開き」

2010年代からチョコレート業界でブームとなっている「ビントゥバー」。これは、原材料のカカオ豆を加工してチョコレート製品にするまでの一貫生産をいうが、さらにその先をいく「ファームトゥバー」、つまり農園でのカカオ栽培からチョコレート製造までの一貫生産をロイズは目指した。1983年の創業以来、「北海道の地で本場・ヨーロッパに負けないチョコレートをつくりたい」との想いを持ち、チョコレート作りを探索するなか、「自分たちのチョコレートは、自分たちの手で育てたカカオからつくりたい」と強く思ったのだ。そこで、2014年、南米コロンビアに自社農園「ロイズカカオファーム」を開墾した。

カオの木に成る、大きさも形もラグビーボールのような果実(カカオポッド)の種子である。数千の花からわずか1%しか実を結ばないというから、貴重なものだ。果肉ごと取り出された種子は、発酵・乾燥という工程を経て、出荷される。コロンビア産のカカオ豆は、アフリカ産の収量には及ばないが、国際カカオ機関の定める「カカオ・フィノ・デアロマ」とされ、香りの良さに定評がある。しかし、コロンビアに自社農園を開くに至った最大の理由は「豊富な研究実績をもち、何よりもカカオ栽培に強い情熱を抱く、良き現地パートナーとの出会いがあったから」と、長嶋亜貴子氏はいう。

「ロイズカカオ&チョコレートタウン」は、自社農園を再現した「カカオファームゾーン」から始まる。展示物やクイズ、デジタルコンテンツを駆使して、カカオの生態や農園での作業を学べる場づくりをしている。続く「工場体験ゾーン」では、実際のカカオ豆加工プラントを見学したあと、製造ラインをゲームなどで体験できる。面白いのは、カカオ豆やチョコレートになりきって製造工程を体感できる工夫が随所にあること。とりわけ製造ラインを映像で体感できる「ロイズアター」は、チョコレート目の線で工場内を駆けめぐれる趣向で、遊園地のアトラクションのようにわくわくする。



▲「カカオファームゾーン」では農園の生活も知ることができる

農園から工場までをめぐる！  
「チョコレートのみち」を楽しむ

ロイズの本拠地当別町が  
チョコレートのみに

「ロイズカカオ&チョコレートタウン」は、自社農園を再現した「カカオファームゾーン」から始まる。展示物やクイズ、デジタルコンテンツを駆使して、カカオの生態や農園での作業を学べる場づくりをしている。続く「工場体験ゾーン」では、実際のカカオ豆加工プラントを見学したあと、製造ラインをゲームなどで体験できる。面白いのは、カカオ豆やチョコレートになりきって製造工程を体感できる工夫が随所にあること。とりわけ製造ラインを映像で体感できる「ロイズアター」は、チョコレート目の線で工場内を駆けめぐれる趣向で、遊園地のアトラクションのようにわくわくする。

コロナ禍の行動制限が緩和され、観光は回復傾向にある。「ロイズカカオ&チョコレートタウン」も順調に来場者数を伸ばし、夏休み期間は1日1000人を数えることも。これからも、当別町の交流人口を増やす起爆剤となるだろう。しかし、ロイズの目標は、観光施設としての成功だけではない。これから、この地から「ファームトゥバー」をはじめさまざまなチョコレートを生信しながら、また、当別町と連携しながら「この町をチョコレートのまち」として広めていきたい」と、長嶋氏は意気込みを聞かせてくれた。いまは工場の敷地を照らす、カカオ型の街灯が、少しずつ町中に広がり、当別町のシンボルとなる日がくるのかもしれない。

(文責) 一條亜紀枝



▲前庭のローズガーデン、JRロイズタウン駅には、カカオの実をモチーフとした街灯が設置されている

**お話を伺った方**

株式会社  
ロイズコンフェクト  
販売促進部 デザイン制作  
主任 長嶋 亜貴子氏

---

**DATA**

当別町ビトエ640の15  
<https://www.royce.com/cct/>  
 ※有料、HPから要予約